

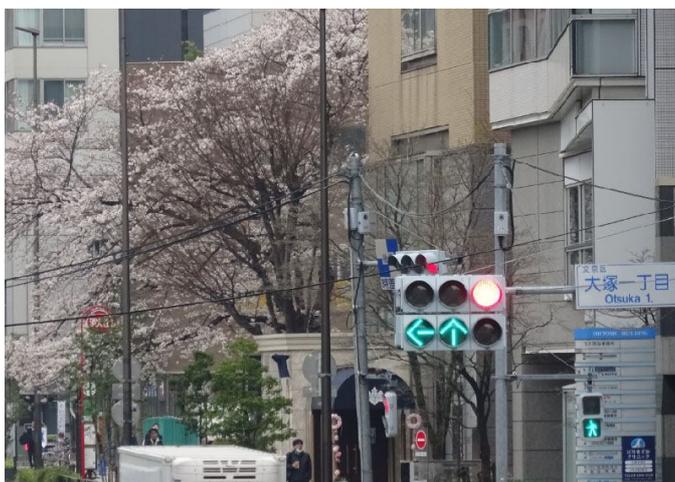
「桜の季節(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

お茶の水女子大学前の歩道橋からは、少し遠いサクラも見える。大塚一丁目交差点越しに見えるのは、跡見学園のサクラだ。



「跡見のサクラ」はすばらしい。春日通り沿いでは一番美しいかも知れない。樹高もビルの3階まで届いているのがわかる。



サクラの絵はむずかしい。何度描いても、満足のいく作品にならない。サクラの花びらが真っ赤だったら簡単なのだが、ほとんど色が無いことが厄介だ。水彩画にとって、暗い背景の手前に、明るいもの(特に白いもの)を描くのが一番むずかしい。油絵なら、背景の色が乾いてから、明るい色を重ねるのは容易だろう。しかし、水彩絵の具だと、どうしても下の色が透けてしまい、白く表現できないのだ。作戦は2つある。一つは「マスキング液」を使う方法。背景を描く前に、マスキング液でサクラの花びらを描いておくのだ。



写真右側が「マスキング液」だ。水色の乳白色の液体で、画用紙に塗って空気に触れると、数分でゴム状に硬化する。その後絵の具を塗ると、マスキングの部分だけ絵の具を弾くわけだ。もう一つの方法は、左側のペン。これは「修正ペン」である。

これは便利で、白の点描を描きたい時に、時々使っている。乾くのも速く、塗ったあと色をつけることもできるので便利だ。



茗荷谷駅から小学校に向かう、春日通りの歩道は、本校の児童が一番たくさん利用している通学路で、サクラの樹の下を通る。東京にサクラが咲き始めてから、少し寒い日もあった。この数日間も朝晩は冷えそうだ。何とかこのサクラが長持ちして、始業式や入学式の日まで咲いていてくれるといいなと思う。

手のひらに 桜見る子の 通学路